

「歯を守れ！予防歯科に命を懸けた男」

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 歯科医師 懸樋 朝子

今回の読書感想文に合わせ、「カンブリア宮殿」「プロフェッショナル」をもう一度観た。その中で私がおおくぼ歯科クリニックに勤務し始めた頃（2007年当時）のことを思い出した。

歯科医師の友人が「治療中、歯を削ると汚れが顔に飛んできてプラークまみれになるわ、出血の中詰めたりしてしまうわ」

私「？そう？初期治療である程度（←ここは今では問題点と気付く。。）きれいになってから治療するから初診でみたときと口腔内の状況は全然違うしプラークまみれってことはなくない？出血してんのに詰めるの？」

友人「（おおくぼ歯科）クリニックって恵まれてるね。うちではムリ」

こんな会話があったのを鮮明に覚えている。

あの頃、院長に「予防って何かわかる？」と問われた。しかし私は「予防って予防歯科のこと。虫歯にしないこと」薄っぺらい知識しかなく、予防というその言葉の深さに全く気付いてすらいなかった。その理由として大学で「予防」の授業もあるにはあったが統計や検診の話がメインであり興味を持たずそれ以上踏み込むこともなかったから。補綴や保存に比べ予防に割いた時間はほんのわずかだったように記憶している。大学の先生の数も一桁違っていた。

学生時代に熊谷先生に出会う事もなく六年を過ごして歯科医師になることは国にとっても国民にとっても当然歯科医師にとっても不幸で損なことだと思う。

熊谷先生「生まれたばかりのひな鳥は最初にみた動くものを親と違ってついていく。歯科医師も然りでライセンスをとって始めの数年でその人の診療スタイルが決まってしまうと言っても過言ではありません」ということでプレオーラルフィジシャン育成セミナーを開催しておられる。

私がおおくぼ歯科クリニックに勤務し、ここで歯科医師として育ち、当たり前のように予防の大切さをスタッフと共有できる環境で過ごせる事を幸せで恵まれていると昔より強く強く感じる事ができる。共有するのはスタッフだけではない。主役は患者さん。患者さんがどんどん変わっていく様子を拝見することも多く経験した。

患者さんに地道に伝え続けること、意識をかえること。それは患者さんの人生まで変えてしまう尊い行為である。なんて素晴らしい職業なんだろうと思う。一人でもより多くの人に共感してもらえるように、患者さんの利益は何かを常に頭に置いて、地域までも変えていけるようにもっともっと伝え続けていきたい。

日吉歯科の患者さんがインタビューでされるコメントのレベルが高いなといつも感じる。予防歯科を身をもって理解されていて何十年も通い続け、生涯自分の歯で食べられる事の幸せをかみしめられている姿を見るとクリニックでもそんな患者さんを増やしたいと思う。

唾液検査を患者さん全員に行うこと。ハードルは高い。プロフェッショナルに出ていた岡先生の「モチベーションをあげれるなら唾液検査をしなくてもいいか」という問いに対し熊谷先生は「モチベーションをあげる方法は唾液検査以外にない」と断言されているやり取りが印象的だった。「本当に患者さんにとってすごい恩恵がある。その人の人生全体で考えているんな事に取り組んでいく」熊谷先生の逃げない、ぶれない 精神。クリニックをオーラルフィジシャン診療所に導いた院長のブレない志。私はそれに恥じない様いつも心に留めて進もうと思う。